

一都三県のひとり親家庭の現状

～新型コロナウイルス感染症対応・ひとり親家庭応援ボックス 緊急追加支援 利用者の申込項目から～



ひとり親家庭
応援ボックス
緊急追加支援申込結果

 Save the Children

(イメージ)

2020年8月5日

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内事業部

<ひとり親家庭応援ボックス 緊急追加支援 実施概要>

- 【実施期間】
- ・受付：2020年6月6日
※当初6月13日を受付締め切りとしたが、受付開始当日に募集数に達した。
 - ・発送：2020年6月19日
- 【配布世帯数】 1,010世帯（子ども1,748人）
- 【対象者】 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に居住する、以下の申込条件をすべて満たすひとり親家庭（0歳～18歳、高校生世代までの子どもがいる世帯）
- 【申込条件】
1. 新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した世帯
 2. 5月にセーブ・ザ・チルドレンが実施した「ひとり親家庭応援ボックス」を利用していない世帯
 3. 児童扶養手当受給またはそれに準ずる世帯
- 【配布内容】
- ・食料品、情報提供
 - ・おもちゃセット（希望者先着200世帯、主に乳幼児向け）
- 【実施目的】 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、収入が減少したひとり親家庭の子どもたちの食の状況改善や遊びの機会確保のため。

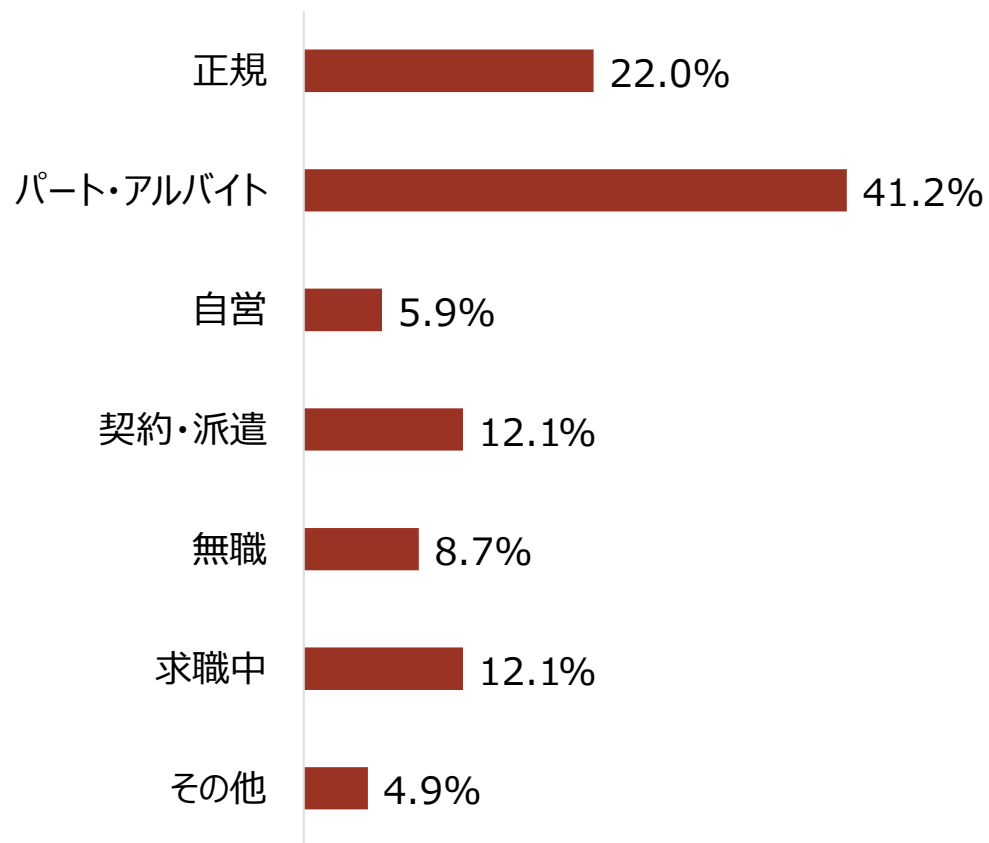
<利用した保護者の情報>

性別	女	男	その他
割合	97.3%	2.6%	0.1%

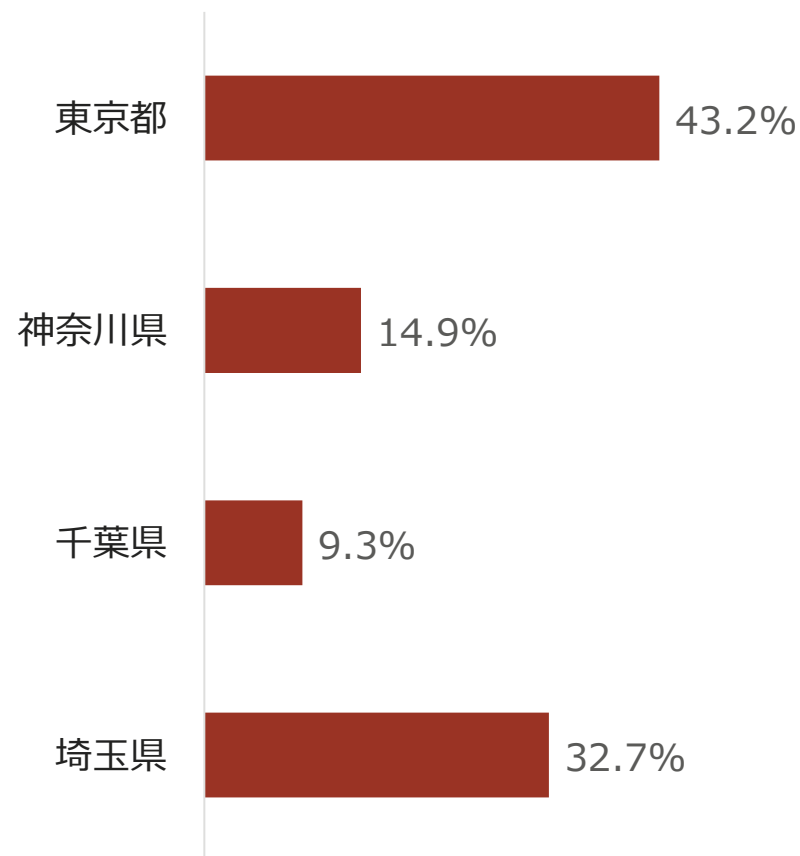
年代	10代	20代	30代	40代	50代
割合	0.1%	7.4%	38.1%	46.4%	7.9%

子どもの 人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	合計
世帯数	463	334	156	37	12	5	2	1	1,010

保護者の就業状況



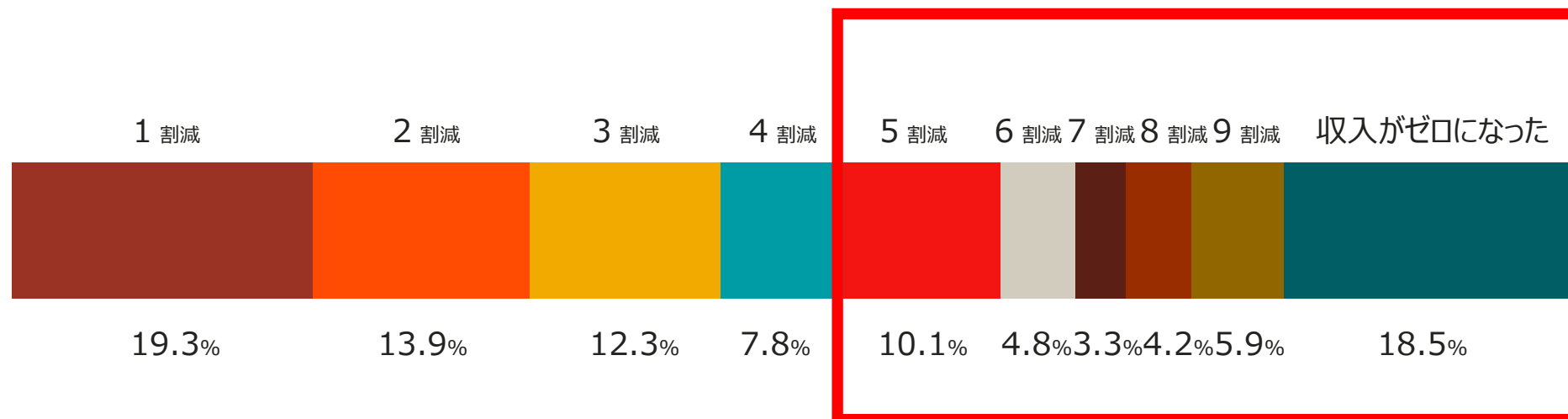
居住地



※本申込結果に示しているグラフについて、割合の分母はすべて、1,010 世帯。

1. 収入が減少した割合

申込時の質問：新型コロナウイルスの影響で、あなたの家庭の収入はどの程度減少しましたか？（必須、単数回答）

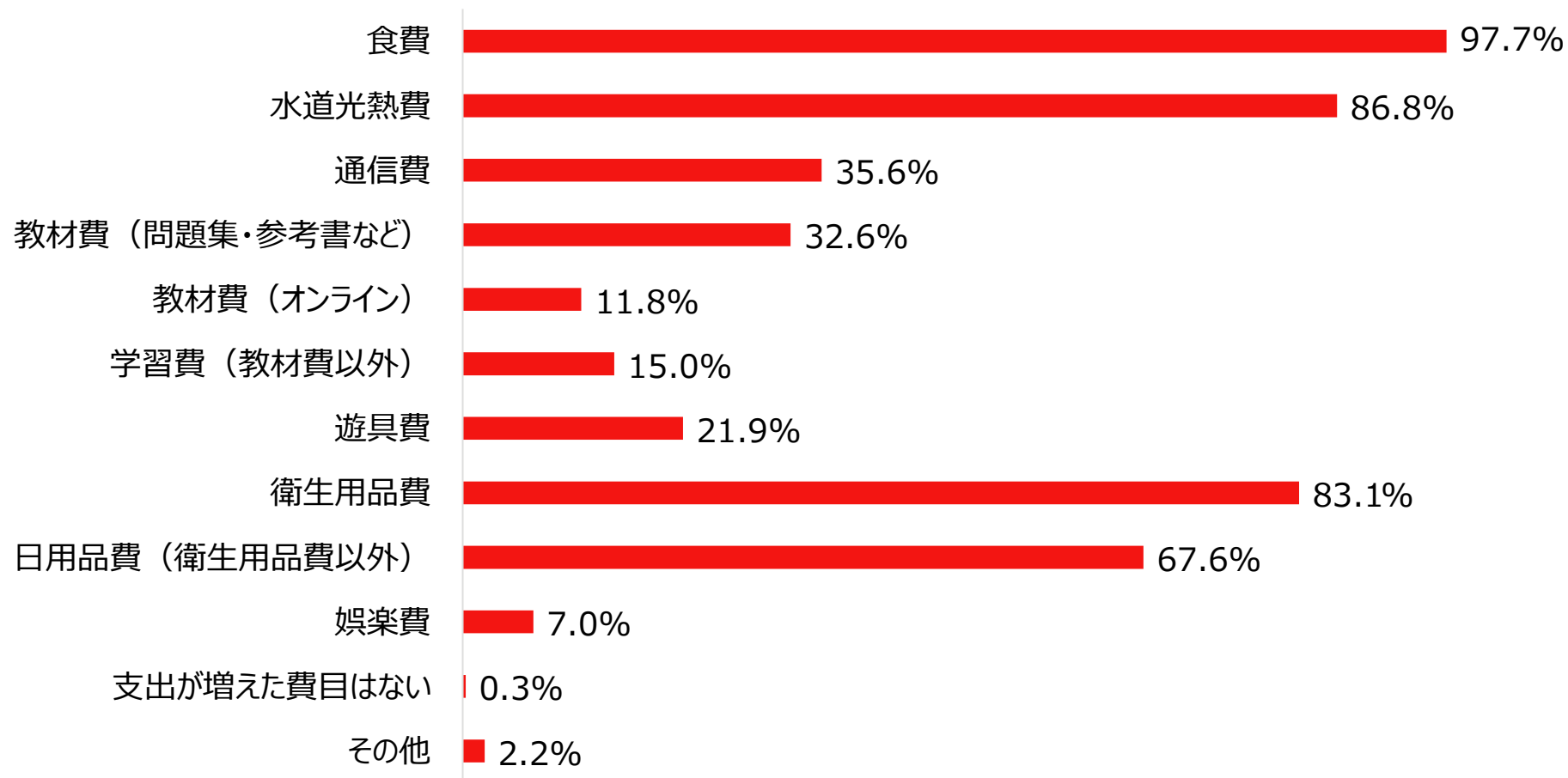


約 5 割の世帯の収入が半分以上減少

約 2 割は収入がゼロになった

2.支出が増えた費目

申込時の質問：新型コロナウイルスの影響で支出が増えた項目を選択してください。（任意、複数回答）

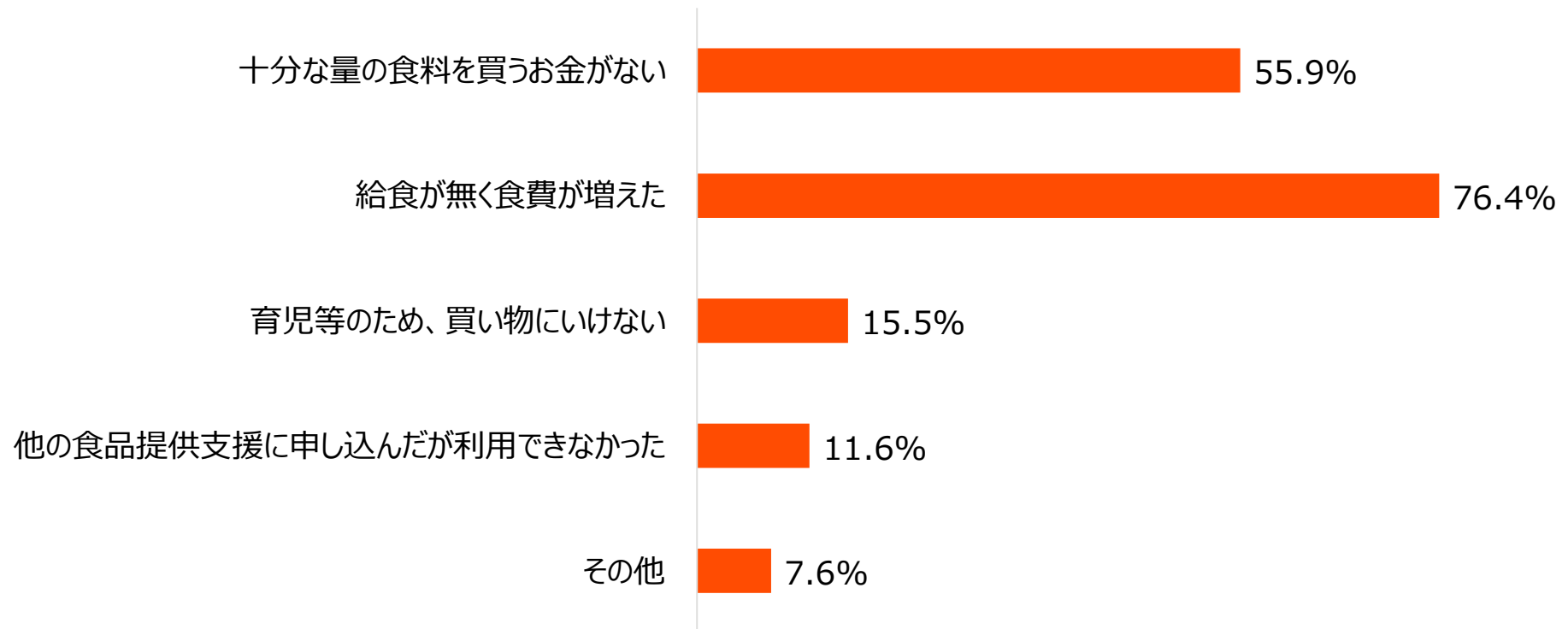


- その他の内容（一部）
 - ・お小遣いやお菓子代（30代女性・中学生1人）
 - ・シッター費用（40代女性・小学1-3年生1人）



3.本ボックスの申込理由

申込時の質問：本ボックスの申込理由を教えてください。（必須、複数回答）



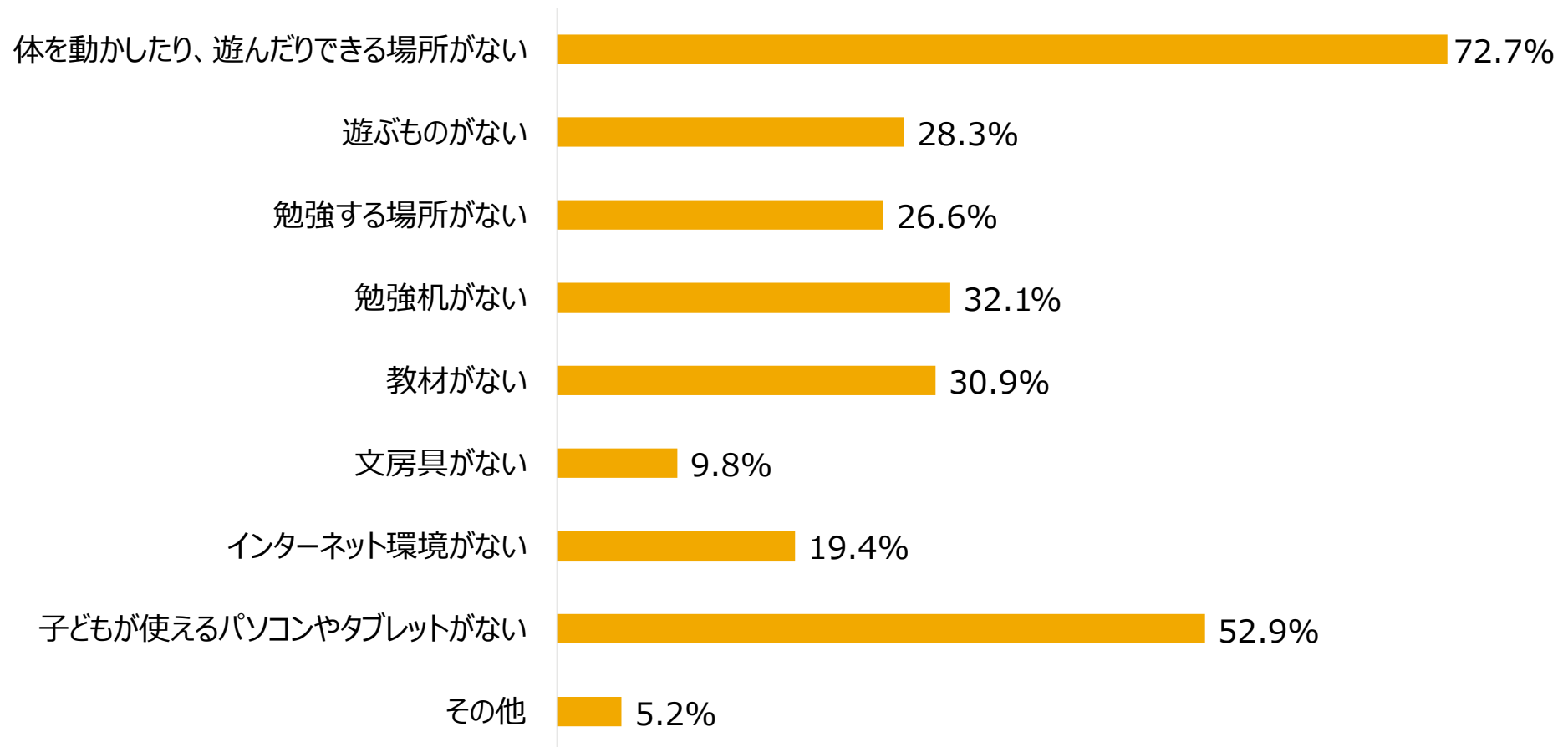
- その他の内容（一部）

- ・在宅勤務のための出費や生活費が増えた（30代女性・小学4-6年生2人）
- ・子どもにおなかいっぱい食べさせてあげたい（40代女性・小学4-6年生、小学1-3年生、未就学児）
- ・仕事先が休業になり、収入が減って困ってしまったからです（30代女性・高校生世代1人）
- ・給食なく毎日お弁当で食費が増え、将来が不安で食費をかけられません（40代女性・小学4-6年生2人）



4.子どもたちの過ごす環境、家庭の状況

申込時の質問：外出自粛・休校期間中の子どもたちの過ごす環境について、ご家庭の状況を教えてください。（任意、複数回答）



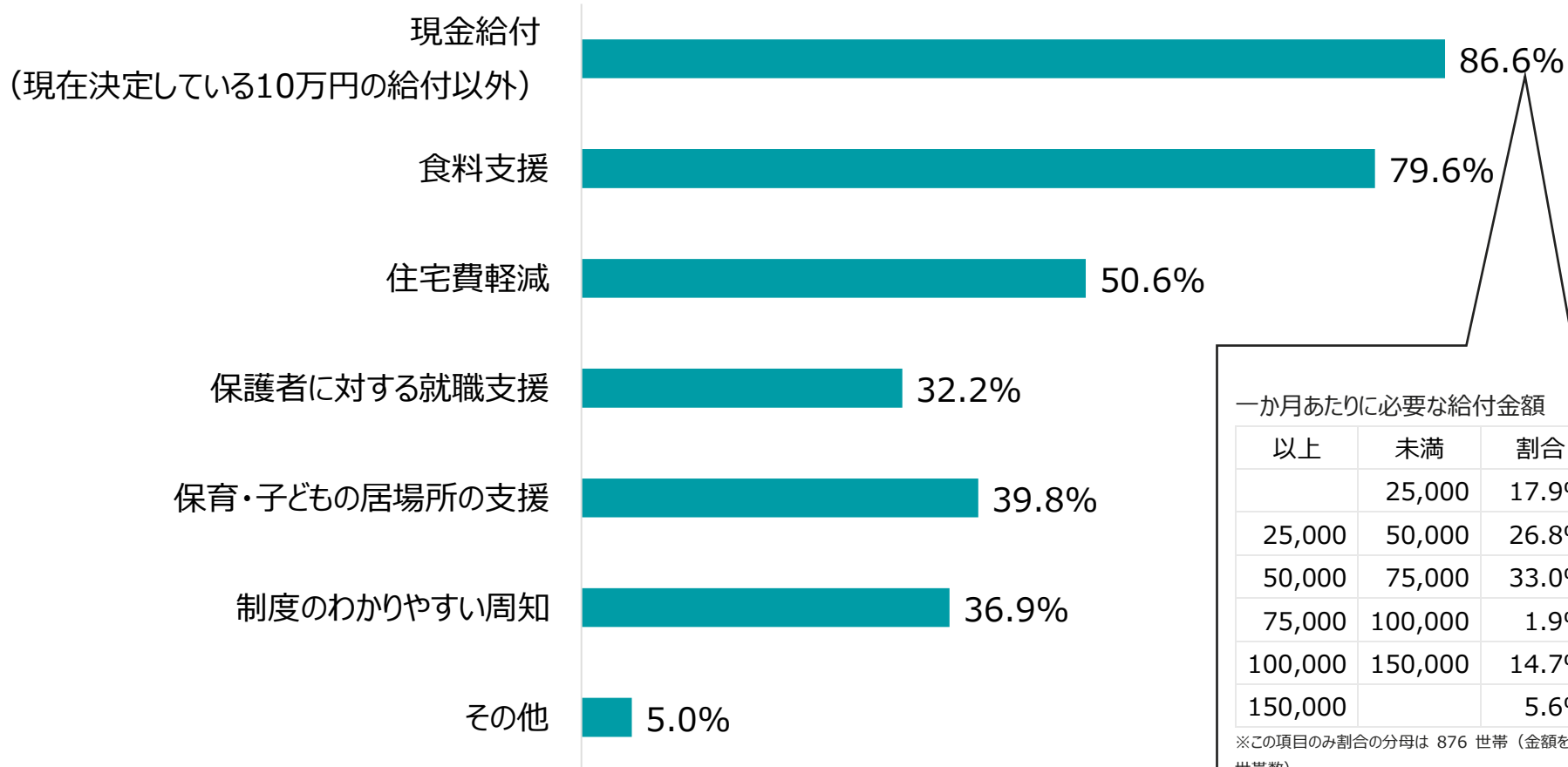
● その他の内容（一部）

- ・一緒に留守番する人がいない（50代女性・未就学児1人）
- ・勉強を見てくれる人がいない（30代女性・中学生1人）
- ・ストレスで兄弟喧嘩が増えイライラしている（30代女性・中学生1人、小学4-6年生1人）



5.必要な支援

申込時の質問：あなたは、どのような新型コロナウイルス支援策が、ひとり親家庭に対して必要だと思いますか？（任意、複数回答）



● その他の内容（一部）

- ・児童扶養手当対象外の家庭にも支援が欲しい（30代女性・中学生1人、小学4-6年生2人）
- ・一人で悩みがちなので、相談できる場面（40代女性・未就学児1人）
- ・塾に通えない子どもの学習支援（40代女性・中学生1人）
- ・ひとり親が就職の為に使える資格の種類など講座を増やして欲しい（30代女性・中学生2人）



6.ひとり親家庭の心配ごと、社会や政府に求めること（一部）

申込時の質問：差し支えない範囲で、あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていること、政府や自治体、社会に求めること、伝えたいことを具体的に教えてください。（任意、自由記述）

現在のひっ迫状況を表すもの

- ・5月末で退職になった。もともと貯金もなく、求人もなくてこの先どうすればいいのか。。。 （30代女性、未就学児）
- ・失業で自律神経失調症になりました。給料もさがりました。食費がとにかくかかり大変 （40代女性、高校生世代・小学4-6年生）
- ・自営業で休業状態となり、今後の見通しが立たない。支払いができず困っている。またそのことで、精神的に不安定な状態が続き、今後生きる意欲がなくなるのが怖い。 （30代女性、小学1-3年生・未就学児）
- ・食べ物も満足に買えなかったりするので、健康面も心配。また心配で眠れなかったりするので、悪循環になってしまっています。 （50代女性、中学生）
- ・ひとり親は本当にひっ迫してます、給付がないと本当にこの先人生まで考えてしまいます。自分で何とかしようとしても限界があります。出来ることは限界までやってます、どうか助けて下さい。 （40代女性、小学4-6年生・小学1-3年生・未就学児）
- ・子供もバイトが出来ず収入が無くなり家庭への収入が減り又ギリギリの生活の中でコロナの影響が大きく進学など予算が余計に無く悩んでいます。 （40代女性、高校生・小学4-6年生・小学1-3年生）

制度に関する要望

- ・高校生の子どもにはなんの支援もありません。一晩お金のかかるときなのに、子ども手当は15歳までです。子ども手当、医療費を18歳まで拡げてもらいたいと願います。 （40代女性、高校生世代）

- ・私の区での自治体は中学生までの児童に追加支援をしていますが、本当にお金がかかるのはバイトを削られて、小中高生より食費がかかる高校と思います。中学までが義務教育だからと言いますが令和の時代、高校に進んでいる子供がほぼ占めているはずで。色んな支援から高校生だからと弾かれる意味がよくわかりません。（30代女性、高校生世代、中学生）
- ・高校生児童がいる世帯の、児童扶養手当などの増額や、他の手当を希望しています。→児童手当は中学生までで、高校生はあてはまらず、この度のコロナの影響による、国や自治会の増額などの恩恵にはあずかれない。大学生も、それなりに支援策がなさらているが、高校生はまったくなく、セーフティネットからすり抜けてしまっており、大変に困窮している。（40代女性、高校生世代）
- ・小さい子への支援はどんどん充実しているが、うちのように高校生がいる場合、児童手当もなくなるし、都立高校でも年間それなりの費用がかかるし、大学へ行かせてあげたくてもこれからどんどんお金がかかるのが不安で仕方ない。1番お金がかかる中高生世代への支援を充実してほしい（40代女性、高校生世代・中学生）
- ・ひとり親でたよれる実家が無く家も狭いのでプライベートな時間や空間が一切なく行き詰まります。家事も追いつかず身体を壊し療養したくても物理的に難しいです。（中略）現金でなくて構わないので負担のかかりにくい働き方をさせていただける仕組み、家事支援を格安で提供してもらえたり、家賃の補助などがあると大変助かります。どこにもぶつけられないもどかしさが苦しいです。（40代女性、高校生世代・小学4-6年生）
- ・年齢と共に体への負担は大きくなる一方なのに、児童扶養手当が『前年度（前前年度）の収入』で判断されるのは不利です。援助等の判断基準を、もっと『現状』に寄り添った対応にしてもらいたい。（40代女性、中学生、小学4-6年生）
- ・現在児童扶養手当を支援していただけていますが、実際は節約節約で、やっと生活していけるレベルで、一般家庭に比べるとやっぱり収入に差があり、子供たちには我慢してもらうことが多いです。以前は4ヶ月ごとの支給でしたが、現在は2ヶ月ごとの支給になって、この件に関してはかなり助かります。就学援助も利用していますが、大半は一度自身で精算してから後で市役所に請求になるので、その都度清算されれば助かります。（40代女性、高校生世代2人、中学生）



- ・現金給付など申請主義は手続きの煩雑さ含めて負担がかかります。自動的な振り込み給付が助かります。（40代男性、高校生世代、小学4-6年生2人）
- ・自治体によって、ひとり親の支援がある所と無い所があるのがおかしい。私の住んでる市は、支援がありません。周りの市はひとり親や子育て世帯に現金給付などの支援をしている市があるのに…（30代女性、中学生2人）

ひとり親家庭への偏見等に関する声

- ・シングルマザーだからって周りに偏見されるのが少し怖い..不安です。3歳から幼稚園に入れようと思ってて偏見されるのが。（20代女性、未就学児）
- ・シングルマザーという仕事面接段階でとても不利になり、転職が叶わない（30代女性、小学1-3年生）
- ・離婚のひとりおやは自己責任を問われ、収入を得るため、理不尽なことをされても我慢することが多い。ストレスで不眠症になったり、差別する人とのコミュニケーションの距離を常に考えてます。（50代女性、小学1-3年生・未就学児）
- ・死別なので収入的にギリギリで、児童扶養手当をもらえず、支援の対象外になることが多い。ひとり親ということを周りに伝えることもしづらく、肩身の狭い思いをしています。（40代女性、小学1-3年生）
- ・ひとり親になったのは自分の勝手。自業自得。とおっしゃる方もいるのは分かっていますが、今は現金と食料、この2つが生きてくうえで必要だと思います。（30代女性、中学生・小学4-6年生）
- ・ひとり親家庭は、楽をしている、税金を無駄遣いしていると思われるような気がします。世間の目が痛い。（40代女性、高校生世代）

■以上